

大崎地区会福祉芸能大会

10月22日(火)、荏原文化センターにて品川区高齢者クラブ連合会(品高連)大崎地区会福祉芸能大会が行われました。品高連では、支え愛活動の推進、花づくり推進事業などを行っており、福祉芸能大会はその中の一つ、会員の生きがい活動として年1回行われます。今年も大崎地区19クラブが出場しました。

歌は童謡から歌謡曲・民謡など、踊りもフラダンス・創作ダンス・日本舞踊・沖縄民謡などバラエティに富んだ華やかなステージが繰り広げられました。中でも西五反田すみれ会「もったいないばあさん音頭」は是非子どもたちと踊ってみたいとなりました。出演された方は「この日のために一生懸命練習しました。出る前は緊張してガタガタ震えましたが楽しかったですよ」と話されていました。

最後は各クラブ一緒にステージに上がり、ホールの観客とも一体となって品川音頭を踊り閉幕となりました。なお、本日出演された中から会場の採点・集計結果も加味され選抜されたクラブは、12月にきゅりあんで行われる品高連福祉芸能大会に出場します。

(編集委員 永尾)



不動前商店街カップ開催!

11月4日、振り替え休日の月曜日さわやかな秋空の下、第四日野小学校校庭をお借りして不動前駅通り商店街主催のサッカー大会「不動前商店街カップ」を開催しました。この大会は地元少年サッカーチーム、FCフェニックスの方たちと商店街の交流から始まり、今やその絆は大変深いものとなっています。

さて試合はというと小学三年生を主体とした近隣のサッカーチームが日頃の練習の成果を遺憾なく発揮。それぞれ、攻守ともに三年生とは思えない大人顔負けの試合運びとテクニックを駆使してグラウンドを所狭しと走り回り、見ている我々も思わず手に汗握る好試合が繰り広げられました。



昼の休憩時間にはFCフェニックスのコーチ陣による幼稚園児までを対象とした親子サッカー教室も行われ、楽しいひと時を過ごしていました。また、シュートのスピードを競う競技も行われ、小学生に交じって商店街のメンバーも小学生に負けじと大人げなく競っていました。

優勝したのは地元フェニックスの子どもたちでしたが、ほかのチームも本当に素晴らしい試合を見せてくれました。

中野屋書店・古谷(不動前駅通り商店街理事長)

おもてなし崎1 防災協

11月10日(日)、大崎第一地区総合防災訓練が第一日野小学校の校庭で行われました。事前に2回、地域センターが主催した「おもてなし崎1 防災協」の英語講座を受講した4家族が、この地域に在住、在勤する外国人の参加者をおもてなししました。それぞれの家族が所属する町会に加わって一緒に訓練して回りましたが、ブラジル人グループを担当した家族によると、日本とブラジルの違いについて(ブラジルには地震はない、治安など)

や、子連れの参加者とは地域の学校などについても英語で会話しました。参加した外国の方は「日本に住むにはこのような訓練を受けることが必要だと思う」と話していました。打ち解けた雰囲気の中、最後に記念撮影をして訓練を終えました。



(編集委員 清水)

編集後記

お正月には百人一首を取ったことのある人は多いと思います。これは鎌倉時代に新古今和歌集を編んだ藤原定家が京都の小倉山山荘で100人の歌人の和歌を選んだもので、歌がるたとして広く愛されてきました。ちなみに令和の元号は三大和歌集のなかでもっとも古い万葉集が出典になったようです。まもなくやってくるお正月には久しぶりに親子、家族で百人一首を取りあって、和歌の楽しさにふれてみるのも良いかもしれませんね。

(編集長 久保田)

中原児童センター 秋の事業

・Let's Enjoy ハロウィンパーティ

10月26日(土)、「ハッピーハロウィン!」「まいど」の挨拶が、不動前駅通り商店街に今年も笑顔と共に行き交いました。乳幼児親子に子どもスタッフ、合わせて230人が参加しました。グループに分かれて、かわいいプリンセス、ヒーロー、怪人、魔女、着ぐるみがお店を訪ねます。いつもはやんちゃな小学男子が優しく乳児に声を掛けて、恥ずかしがり屋の高学年女子も案内に頑張る姿をみせてくれます。「子どもが笑顔でいられる町」「大人も子どももつながる地域」を目指して、10年以上秋の共催事業を続けています。



・パパズクラブ

11月9日(土)から全5回の予定で中原児童センターにおいて、子育て支援事業の一環としてのパパズクラブが開催されました。

パパズクラブとは・・・父親同士の関係を築いて、子育てや家庭内の悩み、不安を話すきっかけを作る場を提供する、というワークショップです。

初回にはお互いのことを知るためにペアを組んでの他己紹介から始まり、ゲームも交えて1時間半の時間が終わる頃にはすっかり意気投合した様子が見られました。パパたちからは、「パパ友が出来そう」という期待の言葉や「少人数で話しやすかった」「冗談混じりの中でも真面目な話ができた」との好意的な感想が聞かれました。



このように中原児童センターでは子どもたちやママ同士の交流だけでなく、パパたちの交流のきっかけ作りなどにも力を入れています。どうぞお気軽に見にいらして下さい。

(中原児童センター館長 上地・白井 編集委員 小林)

ちょっと一服“第二の故郷「五反田」”



私は五反田の町が大好きです。五反田には昔ながらの人情が息づいているように思います。私は高齢者クラブ「五反田たのもし会」の会長として、夏には「工作」や「頭の体操」「シルバー川柳」等を楽しむ昼食会、秋には「お抹茶を楽しむ会」を開催しています。五反田で生まれ育った方や、縁あって居を構えた方々が、集うことを喜んでくださり、昔話に花を咲かせています。そこには互いを思いやる温かい空気が流れています。

私はその姿に「前人木を植えて、後人涼を得る」という諺を思い浮かべました。それは、JR「五反田駅」が明治44年に人々の善意や願いに支えられて開業されているからです。前人が育んだ支え合いの心が脈々と引き継がれ、温かい風土を形成しているように思います。この住み心地のよい五反田は、私の第二の故郷です。

(角田 美枝子)

川柳・俳句

知り合いの 医者が増えたと 自慢する

平塚二丁目 田中 勝義

酔い覚めに 町をぶらつく 星月夜

西五反田三丁目 斎藤 みゆき

隣りから 揚げたて天ぷら 母の味

西五反田三丁目 大島 道子

増税だ 駆け込みたいが 金がない

中延四丁目 薄井 儀広

子供には 老いてますます 後わず

西五反田六丁目 久保田 公一

地域の方が協力し意見を出し合って「はなぐるま」を作成しております。ご意見・ご感想や投稿などお気軽にお寄せください。

編集委員も随時募集中です!一緒に紙面作りをしましょう。大崎第一地域センター 電話3491-2000までご連絡ください。